浜松 南高新聞

発行所
県立浜松南高校新聞部
静岡県浜松市米津町
印刷
浜松共同印刷株式会社

校訓　最善を尽くそう

正しいメガネでしあわせを…
メガネの吉田屋
広小路店　浜松駅前広小路通り　☎53-1188（代）
旭町店　浜松・旭町（浜松郵便局前）　☎54-0181
高台店　浜松・幸一丁目（ユニー前）　☎73-8118

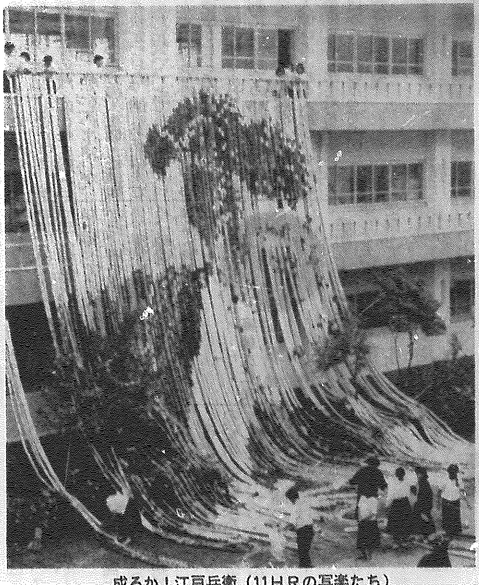
購買委員会
営業時間
12：50～13：10
15：40～16：00

第3回波濤祭 STORM OF FESTIVAL

（通算第25回）

波濤祭は僕の夢!!

去る六月十、十一日、第三回（通算25回）波濤祭が開催された。執行部では会長を中心に今年の二月から話し合いを始め、三月末までに綿密な計画を立てた。この意気込みが生徒にも伝わったのか全HR、HR展参加という喜ばしい状態で波濤祭を迎え、大盛況のうちに幕を閉じた。そこで、夢を成し遂げた会長に、インタビューした。



成るか！江戸兵衛（11HRの写楽たち）

――波濤祭のことを意識し始めたのは？

「昨年の十月です。本格的に考えをまとめ始めたのは今年の一月に入ってからになります。この時点で文化委員長を兼ねることが決まりました。執行部のあいだで話し合いをしたのは二月で、基本方針について決めるのにずいぶん時間がかかりましたが、三月末までには大体の計画が出そろいました。」

――それから波濤祭までの活動は？

「四月から仕事を開始しました。このとき一番心配したのは部・HR展の展示の内容です。今年は、全HR、HR展参加を呼びかけて、一年生でも波濤祭で何かできるように『試験に出る波濤祭』の発行や、希望があれば昼休みにクラス訪問もしました。僕自身、一年のときいす並べやもの運びばかりやらされて波濤祭が面白くなかったので今年はなんとかしたかったんです。実現できてよかったです。それに文化委員会では、熱心に質問に来る一年生もいてうれしかったです。

四月の中ごろには、部・HR展の内容が決まってきたのですが、部展の方は昨年と同じようなものが多く、HR展の方も迷路だらけでした。今年は、遊びの要素と知的な要素との調和がとれた展示をめざしたかったので、多数の考えなおしを頼んだのですがあまり効果がなく残念でした。」

――会長の目からみた当日のできばえは？

「予想以上に展示の内容がよくて驚きました。特に三年生の展示は工夫されているものが多かったし、二年生の呼びこみも派手で良かったと思います。ステージの方は新設の演劇部と、吹奏楽のグレードアップした演奏を中心に充実していました。客足は雨でいま一つでしたが、僕としては成功したと思います。」

――最後にひと言。

「波濤祭がおわったとき、全身の力が抜けてしばらく何もやる気になりませんでした。それだけ波濤祭に賭けていたのを実感しました。今年をステップにさらなる波濤祭のレベルアップと、南高文化の発展を期待します。」

男子生徒、御手並み拝見（抹茶同好会）

汗と涙の壁画作り

生徒会から話がもちあがったのが四月中旬。文化委員を通して11HR全体に広まった。とてつもない量の空カン集め。みんな成功するかどうか半信半疑で「空カンの壁画」にとりかかった。

波濤祭までの一ケ月強、一人一日十五個の割合で空カンを持ってくれれば、三万五千個に達する。しかし、この計画が成功するはずはなかった。次の日集まった空カンの数は三十個。四十七人どころか、たったの二人しか空カン集めに参加しなかったのだ。一週間たっても、二週間たってもカンの数はいっこうに増えなかった。ポスターを描いて学校中に協力を求めたが、これもあまり効果はなかった。

そんな中、新たな案が浮かんだ。ゴールデンウイークの凧あげ会場まわりである。会場までリアカーで、あらかじめ集めておいてもらった空カンを積み何度も往復する。集まったカンは、一つ一つ洗って、使えるものと使えないものとを選別する。この大変な仕事にせっかくの連休をつぶせるか、みんな口々につぶやいた。しかし、これをやり通さなければ、「空カンの壁画」は成功しないのである。

初日は、ごく限られた人だけが参加したが、日が増すごとに人数は増えていった。そして、最終日にはとうとうほとんどの人が参加し、約二万五千個の空カンを集めることに成功した。クラスがまとまり始めたのである。

「山の村」の代休には、雨の中、穴あけにとりかかった。翌日からの放課後は常に残り、夜遅くまで穴をあける音がきこえた。

中間テストがおわると同時に次は色ぬりである。実行委員長のつくった配色表をもとに、分担して作業に入った。

波濤祭三日前。いよいよひも通しである。色のついたカンを順番どおりに通す。一個でも間違えれば、はじめからやり直しであり、二人一組で一本百八個、十本で千八十個を通した。それを束にして、あとはつるすだけの状態で波濤祭をむかえた。

しかし、当日の激しい風のため北校舎屋上からつるすはずだった計画が中庭へと変更になった。これでは意味がない。遠くから見えるように、客足が増えるようにあの場所にしたのに。今までの努力が水の泡だ。みんなやる気を失った。午前中の準備には、ほとんどの人が参加しなかった。

どうにもならないことである。そのときは、できる限りの手段で目標に近づけるのだ。午後になるとメンバーがぞろぞろと中庭に集まってきた。この場所に最高の壁画を[illegible]みんな必死でとりつけにかかった。仕上げにはパイプにひもをしばりつけ、思いきりはった。

完成だ！完成したのである。クラス全員の力が集結したのである。奴江戸兵衛が、こっちをむいて微笑みを浮かべた。

演劇は心だ!!

本年度より設立された演劇部による『ゴジラ』の上演も話題を集めた。内容は怪獣ゴジラと少女やよいのいわゆるラブストーリーだが、これが第一作とは思えぬほどの息の合った熱演ぶりだった。それもそのはず、演劇部設立の話は昨年から持ち上がり、一月、生徒会に提出。これが認められて四月より発足。つまり、本当にやる気のある生徒が集まったわけだ。しかし、どの部にも見られるように、この新設の部にも少なからず問題点はあったようだ。練習の仕方を始め、裏方の細かい仕事までどのように進めたらよいのかが手探りの状態であったこと。部員数が少なく、女子が男役をやらざるを得なかったこと。照明器具などのための部費のこと。

苦労した点は多かったものの放課後七時半までの練習の成果は十分に発揮された。部員たちも大満足で「出来は？」と聞いたところ、すぐに「最高！」という言葉が返ってきた。ゴジラ役の21HR中山慶太郎君は「自分たちの年齢と離れた役が多く、それになりきるのは苦労しました。しかし、人前に出せる形で波濤祭を迎えることができて良かったです。」やよい役の28HR手塚詠子さんは「みんな一生懸命がんばりました。見に来てくれた皆さん、ありがとう。」部長の27HR佐々木貴子さんは「二カ月足らずの練習でしたが、いい出来でした。次回の公演もぜひ見に来てください。」と、早くも次回公演への抱負を語っていた。

初演！　熱演！　大好評（演劇部）

来年度に向けて

最後に、舞台発表についてぜひ考えてもらいたい。発表の最中に席を離れたり、おしゃべりを始めたりする人が非常に多いのである。これは舞台に立っている人に対してたいへん失礼であり、発表を見たい人にとっても、迷惑なことである。しかし一方で見る人をひきつけるような工夫はあったか、舞台装置に不備はなかったか、といった製作側の問題はどうだろう。次回の波濤祭での改善を期待する。

以下は、成績の結果である。

――HR展――

最優秀賞　33HR『リクルートだよ人生は』
優秀賞　34&39HR『今どきの昔話』
アイディア賞　22HR『南高横断ウルトラクイズ』
努力賞　29HR『それ行けじいさん！』
大衆賞　27&31HR『愛と青春の…？』、
審査員特別賞　11HR『壁画』25&20HR『門』

――部　展――

最優秀賞　吹奏楽部『1812』『パリのアメリカ人』他
優秀賞　ワープロ部『ワープロに親しもう』
アイディア賞　カルタ部『カルタの世界再び』　地理・歴史部『静岡・時の流れ』
努力賞　演劇部『ゴジラ』
大衆賞　マイコン部『STORM OF AMUSEMENT』
審査員特別賞　英語部『フィンランド展』

論説

高校生はいま…

初心不可忘

今、高校生はいったい何を考え生きているのだろう。私達一年生が高校に入ってすでに三ケ月。高校というところにずいぶん慣れた感じがするが、まだ高校生活のほんの断面しかみていない。しかし、一年生から見た南校の現状に対する感想を述べてみたい。

本校に入る前は、入学したらこんなこともしてみたい、あんなこともしてみたいと考えていた。だが実際の高校生活は、課題、予習、復習が帰宅してからの時間の三分の二をしめ、自分のためにとれる時間があまりない。将来、良い大学に入り、良い会社に就職するためには、今やらなければならないということは誰でも十分に分かっていることなのだが……。

高校とは本来、中学校課程を終え、さらに勉学にはげみたい人のためのものである。しかし、私の身のまわりの学生達は高校は誰もが行ってあたり前、高校は大学受験のための通過点としか考えていない人が多いようだ。しかし、本当にそれだけでよいのだろうか。勉強以外にも大切なことがあるのではないか。もっと自分の中の何かをひきだすことができないだろうか。高校生として〝今〟を生きていくためには勉強だけでなく、もっとほかの大切なこともやらなくてはいけないはずである。同級生の一人に聞いたところ「三年間の希望はない。」と答えた。しかし、それではあまりにもさみしすぎはしないだろうか。私達に必要なもの、それは希望を持って学生生活を送るということではないだろうか。

豊かな高校生活を送りたい、しかし将来、良い大学にも合格して、良い会社にも就職したい。私達は二者択一をせまられている。では、一挙両得ということはできないだろうか。希望をもって豊かな高校生活を送ればきっと勉強もがんばれるはずだ。

では南高生の現状はどうだろう。現在の南高生は浪人が大勢いる。浪人した原因は何だったのだろうか。はっきりしていることは勉強不足だということである。では、なぜ勉強不足になるのだろうか。この原因を自ら探り、自ら解決することが、今、南高生に求められているのである。今、私達はやりたいと思うことがたくさんある。しかし、どのように実行したらいいのかわからないのだ。だからいつの間にか高校生活というものが終わっていってしまうのだろう。たった一度しかない高校生活なのだから、もっと希望をもって生きなければいけないと思う。そうでなくてはせっかくの人生がつまらないものになってしまうのではないか。

いま、高校生としてもっと希望をもって過ごしていかなければ、これから先の人生を切り開いていくことはできない。学生達の無気力さの中には希望の光は見えてこない。日本人の集団意識が学生を無気力にさせているのかもしれない。みんなが行くから大学へということもそうかもしれない。しかし、大学に行ったからといって無気力な状態から脱け出せるとは限らない。むしろよけいに無気力になっていくこともあるだろう。希望もなく大学へいってもそれは高校生活となんら変わりはない。同じことをくり返していくだけではないだろうか。それならば、いま一度、自分の高校生活というものを見直してみてはどうだろう。まず、自分が高校生になったときの初心を思い出したらどうであろうか。初心をふり返るだけでも、希望のない無目的な学生生活に一歩でも二歩でもメスを入れることができるのではないかと思う。

すべてが無気力になる前に、そこに一つでも希望を見い出すことができれば、私達は三年間の高校生活を充実した生活にできる。それができるかできないかは、本人つまり生徒一人一人の心構えによるのではないか。もっともっと私達が成長するためには、少しのことでも希望をもって進み、道を切り開いていくスピリットが必要である。

南高生たちよ、希望と夢をもって今を生きてみよう。豊かな高校生活のために、もう一度初心を振り返って、何でもよい、何か実行してみたらどうだろうか。

人を語る

大石幸男先生

命の大切さ

K学園のYさんから

今回は、社会科の大石幸男先生にご登場いただきました。先生は、最近のニュースで関心をもっている事件の一つに幼児の誘拐殺人を挙げ、その事件を聞く度に、思い出すという重度心身障害者の施設、K学園の園長Yさんについて、お話しになりました。

このK学園は、知恵遅れや身体が不自由な人のための学校です。年齢幅は広いけれど、知能年齢となると、一歳か二歳、まれに三歳程度だそうです。Yさんはとてもその人達を大切にして、年に何度か先生宛にK学園の機関誌を送って、学園内の様子などを伝えてくるそうです。先生はこの機関誌やYさんの話しから、生きていく権利、命の大切さなどを教えられるそうです。

また、先生は毎月Y学園に献金を送っているそうです。それは、先生に子供が産まれた時、「どのような子にも生きる権利がある。」とおっしゃったYさんが優しく、温かく感じられ、自然に寄付したくなるほど良い人だと思ったからだそうです。

そして、Yさんのように、人間を大切にする人達がいるとともに、無惨にも人の命を奪う人がいるというのが先生にとってつらい事だそうです。それと同時に、命を大切にしなければならないとつくづく思うそうです。

Yさんの影響で、先生は生徒の命も大切にしたいと思っているそうです。先生がこれまで担任した生徒で、すでに三人が亡くなったそうです。その生徒達の命日には、庭に地蔵を作り、花を供えることが、自分の勤めだと先生はおっしゃっていました。そして、これをやろうと思ったのも、Yさんの影響だそうです。

先生は一度、高校生と一緒にK学園に行ったそうですが、高校の生徒達も優しく児童に接したそうです。このような体験から、みんなに、Yさんが言おうとしていることを分かってもらいたいと、先生はおっしゃっていました。

そして先生は身近な例として、自転車での交通事故を挙げました。他人事と思わないで、お互い交通ルールを守って、事故のないよう心掛けてもらいたいそうです。

最後に先生は、「一番言いたい事は、かけがえのない青春なのだから、自分も、人も、命を大切にしてほしい。」とおっしゃって話しを終えました。

先生は私に、話しを終えた後、一冊の本を貸してくださいました。その本は、Yさんの書いた本でした。そこにはK学園の中で起きた看護婦や子供達の実話が記されていました。それを読んでみて、先生が何度もおっしゃった「命を大切に。」という言葉を痛感させられました。

レトロブーム？　餅つき大会

日本の伝統を見直そうという新企画、餅つき大会が中庭で行われた。餅つきには欠かせないが、私たちの生活の中では使う機会のない「うす」や「きね」が登場した。見なれぬ光景に興味をひかれて集まる人。きねを重そうにふり上げる小学生の男の子。ペッタンペッタンというきねの音にこわごわと餅をこねる南高生。慣れた手つきで餅をつく先生方。そんなアットホームな雰囲気の中で行われた。生徒にとっては珍しく、先生方にとっては懐しい思い出ができたことだろう。当初はなるべく多くの人に餅つきを体験してもらう予定だったが、残念ながら悪天候のためか参加する人は少なかった。しかし、つきたての餅は集まった人たちにたいへん喜ばれ「伝統の味」は好評だった。希望者が多ければ、来年も行われる予定である。

つきたての手作りの餅はおいしかった！（中庭にて）

遠州灘

みなさんの中には、電話で話すことが大好きという人と、あまり好きでない、どちらかといえば苦手という人がいるでしょう。では、ここで好きなところ、苦手なところをいくつか挙げてみましょう。

まず好きなところ。会っていなくても相手の反応がすぐに楽しめる。なかなか会えない相手との交流が深まるところなど挙げていけばきりがないでしょう。しかし、その時思わず話がはずみすぎて、ついつい長電話になることもしばしば……。

さて、次は苦手なところを挙げてみましょう。まず、電話をかけます。用件を言います。その後はどうしますか。適当なあいさつをして切りますか、そこで切るタイミングの難しさがでてきます。うまく切れず、しばらくの沈黙、これは恐い。そしてそのあとの意味のない笑い、こういう電話のあと、用件は何だったっけ、ということはありませんか。次に電話の時のマナーを少し挙げてみましょう。

まずかける時です。この時の重要なことは時間帯です。夜遅くはもちろん、食事時、休日の朝の電話も気を使って下さい。人間、おいしいものを前にして食べれないことはつらいものです。休日はみんな体を休めるためゆっくりしたいものです。ですから、かける時は相手のことまで考えることも必要です。

次に、かかってくる時です。相手はかけたくなくても、連絡網などでかけなければならない時もある。そんな時、こちらも不機嫌な応待をしたらどうでしょう。相手だって（私だってかけたくてかけているのではない。）と思うでしょう。そこで、不機嫌の輪が広まるわけです。

このようなことに注意し、経済的な面も考え、親の注意にも笑顔で応待。これからも電話は楽しみながら使いましょう。

コンタクトレンズの視力矯正は
良い製品と優れた技術に基づいて処方して下さい。
コンタクトレンズは、ハードで連続装用の時代。
Theコンタクトレンズ
メニコンEX
眼科医の指導のもとで「つけたまま眠れる」連続装用ハードコンタクトレンズ。
・酸素透過性はメニコンO₂の5倍。
・ハードタイプによる確かな視力矯正。
・最長一週間、連続装用可能。
・手入れ簡単、煮沸消毒不要。
★広告持参の方、学割有り。
メニコンO₂-32　プレス・オー
メニコンソフトM　シード HiO₂　ソフィーナ
●定休日/日曜・祝祭日
分割払いのメニコンクレジットも取扱っています。
浜松コンタクトレンズ
浜松市元城町219-20（市役所南筋向い）　駐車場完備
詳しいことはお電話で ☎(0534)53-3030

本・レコード・ビデオレンタルの店
BUN GAKU KAN
イケヤ文楽館 高台店
駐車場30台収容
夜11時まで営業
（年中無休）
BOOK&RECORD
イケヤ文楽館 高台店
イケヤ　本店　浜松市田町有楽街　(0534)52-5151
鍛冶町店／文楽館高林店／文楽館高台店
磐田店／aiai磐田店／掛川店／袋井店／浜北店

インディ・ジョーンズ
最後の聖戦
ハリソン・フォード　ショーン・コネリー
（監督）スティーブン・スピルバーグ
（製作総指揮）ジョージ・ルーカス
満足度100%
大ヒット!!上映中
田町ショッピングセンター・中央ビル4階
浜松中央劇場
TEL0534(53)0887

贈りものに
全国共通図書券
教科書・新刊書籍・雑誌
参考書・各専門図書・地図
文泉堂書店
〒430 浜松市連尺町314-1　TEL54-6358代表

新任紹介

野間　幸治
教頭
英語

当年51歳。家族は妻、娘3人。趣味は釣りをしながら、自然に親しむこと。出身地は鹿児島。現住所は浜松市湖東町。南高生の印象は、素直であるが、活力に乏しい。この素直さを、さらに伸ばし、各人が目標をもってそれに挑戦するよう努めてほしい。若者が何かに向かって、一心不乱に努力している姿ほど美しいものはありません。微力ながら、私も皆さんの力になれるようがんばります。

鹿野　善健
教諭
数学

南高の印象は生徒会活動が大変活発で学校に活気があることです。すばらしいと思います。

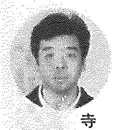
南高生に望むこと。主権者・国民としての生きる力（学力、体力など）をつけるために、自己をコントロールして主体的に生きること、そして望みを高く持ってその実現のために学習や部活に前向きに取組むこと。

出身地は山形市。高校時代弓道をやり、弓道二段。前任校は浜松城北工業高校。女子ハンド部顧問。家族は妻と一男一女。

松浦　博實
教諭
体育

教員生活19年目。本校が4校目。前任校の袋井商には11年。「どこの学校でも、高校生は同じ高校生だ」というのが本校の印象。自分の置かれている状況、自分の能力、将来に対する展望等々の把握がひじょうに希薄であるということ。別の観点からみればそれが高校生なのかもしれないが。すなわち「大きな可能性」を秘めているということ。

期待すること。「二兎を追うものは一兎も得ず」とはよくいわれるが、その二兎が何であるかは別にして、この高校生の年代にしかできないことが二兎あるいは三兎あるならば、そのすべてに挑戦してほしい。一日24時間をフルに使いきってもらいたい。



寺田　敬児
教諭
書道

幼稚園の頃、三歳年上の兄について書道塾に通い始めたのが書との出会いだった。その後、何気なく続けていたのだが、高校三年生の時、師山崎大抱（日展評議員）先生との出会いが、その後の自分の人生観・価値観を決定づけた。師はその頃まだ元気で、とても老境に入ったとは思えなかった。周りの空気がピンと張りつめていた。「僕の所でよかったら。」と名刺に自宅までの地図を自ら書いてくれた。その感激と、謙虚で人間味あふれる人柄が、今でも鮮明に思い出される。出会いとはかくも人にとって大切なものだと実感する。

天野　清行
教諭
社会

私の体型は丸型である。だから走ることは苦手であるが、樽ころがしは得意である。家族は妻一人、子供二人、貧しいながらも楽しい我が家である。

南高での担当は社会であるが前任校では国語も担当していた。しかし漢字は苦手である。

最後に、趣味はボーとしていることである。時々ニタニタと笑う。そんな私を人は無気味に思うだろうが、人に危害を加えぬ、ただボーとしているだけである。

大石　昌利
教諭
数学

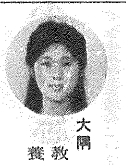
南高は、自由な学校だと思う。僕は、自由に最も価値を置く人間だから、南高が好きになれそうだ。趣味は、まず、仏像鑑賞。仏教の歴史や思想についての本を読んだり、静かな寺で坐禅を組んだりするのも好きである。また、落語鑑賞も趣味で、円生や志ん朝などのテープを五〇巻以上持っている。落語を聞きながら、車を運転してニヤニヤ笑い、薄気味悪がられたこともある。最後に、ゴルフは、趣味ではなく特技である。

高橋久仁和
教諭
体育

昭和五十二年三月に本校を卒業して大学に進学し、体育教師になってまた本校にかえってきました。卒業して十年以上たちますが、当時の南高は非常にのんびりとした雰囲気で、グランドにも半分以上草がはえている状態でした。生徒も何かに熱中するということが少なく、ただ何となく三年間を送ってしまう感じでした。現在は学校内も整備され、あとは生徒皆さんが、生き生きとした活発な学校の雰囲気をつくっていってもらいたいと思います。

岡安　秀夫
教諭
理科

生年月日・昭和35年1月2日生れでもうすぐ30歳
前任校・沼津東高校
担当教科・理科
趣味・車のワックスがけ
南高の印象・潮の香りのする自然に恵まれていてよいところ
理想の生徒像・明るい生徒
自己PR・すごく短気です
抱負・気長になりたい



大隅　晶代
教諭
養護

中・高・大学とずっと女子校で育ち、前任校は男子校、南高に来てはじめて男女共学を経験し、これが一番自然な姿なのかなと感じています。趣味はスキー、テニス、食べ歩きと、スポーツをして汗を流しておいしい物を食べることです。

生まれたところは、南高より東へ5km行った下江町（芳川）というところで、現在は結婚して富塚町に住んでいます。

南高へは高校時代バスケットの試合で何度か来たことがあり、数年前をなつかしく思い出しています。その頃の南高生と今の南高生と雰囲気は変わっていないなと思いました。

南高へ来てそろそろ三ケ月が過ぎようとしていますが、少しずつ南高生を理解しかけてきたようです。

西村利津子
教諭
家庭

高校卒業までを津で過ごし、大学時代は名古屋でした。卒業後一年間瀬戸市で教師を経験した後、結婚して和歌山で十一年を過ごし、十年前に浜松へやって来ました。（さて何歳になったでしょう?）

月日の立つのは早いもの、随分年を取りました。自然な生き方が好きなので、関西弁もなおりません。一日一日を大切にして下さいね。

長嶋　誠子
教諭
英語

一年生⑪を3クラス担当。

名古屋出身、浜松に移り住んで4年、温暖でのんびりとした浜松が大好きです。趣味は映画、音楽。南高校の他に、英会話や日本語を教えたり、通訳をしたりして英語に携わっています。又浜松を訪れる外国人をホームステイさせ、いろいろな国の人々と触れ合い、話し合えることを楽しみとしています。英語を学ぶことによって、外国への関心を持ち、広い視野を培って欲しいと願っています。

武山　優子
教諭
商業

十八年ぶりに、再びこの南高に足を踏み入れた時は、懐しさで一杯、浦島太郎?のような心境でした。私達が入学した時はまだきれいだった校舎も、大分くたびれ果てて、化粧なおしが必要な年代になったみたい。（私はまだ大丈夫?）

あの頃悪ガキだった同級生達も、今では社会の中堅として頑張っています。君達も現在はダメ生徒でも将来は立派な社会人になるだろうと、長い目で見守っていきたいです。

大庭　知世
教諭
国語

男子クラス初日。全然ウケない冗談に冷や汗を流していた私はハッと気づきました。「そうだ!私は漫才師じゃなく教師だったんだ。」…あれから間もなく三ケ月、女子校育ちの内気な私も、理系の数少ない女子の真面目さに支えられ、大多数の男子のひたむきな姿（小テストの情報収集に他クラスを飛び回る姿）に心打たれて、生徒に負けじと大声をあげて教室を震撼させている今日この頃。楽しみすぎてやせないのが悩みです。

杉本　昌之
教諭
体育

こんにちは!本年度より南高の講師となりました。私は本校の第十九期卒業で、教育実習でもお世話になりました。私の在学中は、現在の様な活気というものがなかったように思います。生徒も大人しくてどこで発散しているのかと思う程でした。

今度は教える立場となって色々四苦八苦していますが、母校南高が更に活気あふれる学舎になるよう頑張ります。いつでもどこでも、最善を尽くしましょう。

橋本　淳子
教諭
家庭

今年の三月に16年間の学生生活を終え、四月からは社会人として、私の平成元年は慌ただしくスタートしました。

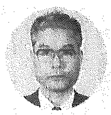
実は私も皆さんと同じ昭和40年代生まれなのですが、何か違いを感じています。考え方や行動、そして〝若さ〟ではないかと思います。

若さは有限なものですが、一番いろいろな事が出来る時です。ですからいろいろな事に興味を持ち、チャレンジして自分を試して下さい。そして本当に自分のやりたい事を見つけて下さい。それがきっと今後の人生に大きな支えになってくれると思います。

松下　弘志
教諭
社会

島田市の生れです。去年九月（ちょうどユッカ君と同時）にここへきました。今は社会科の非常勤講師として、37・38HRの地理を教えています。

「山と山は会わぬが、人と人とは出会うものである」というスワヒリ語の諺がありますが、南高の素晴しい先生方、生徒のみなさん、その他の方々と出会うことができ、体はデカイが未熟者である私を、ご指導、またもりたてていただき心より感謝しています。学校はとても楽しいところです。有意義に時を過ごせるよう、松下がんばります。



伊藤　貞夫
事務長

子年生れ、母親、妻、子供二人の五人家族、浜北市に居住、前任校は新居高校、以上が私の自己紹介です。本校は校舎がきれいで生徒も素直で真面目な人が多いと感じました。今年は第二体育館が完成されます。施設も整備されてまいりましたが、これを生かすも殺すも君達次第です。思い切り活用して充実した三年間にして下さい。

名倉　幹乃
事務助手

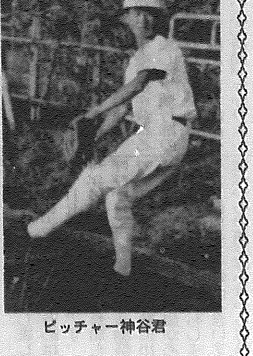
浜松市新橋町の自宅から徒歩で15分位、二人の息子の母親、長い間の専業主婦から、心機一転のお勤め。新入生のつもりで頑張りますのでよろしくお願いします。

宮崎　治美
事務主任

高等学校の事務職員として、毎年入学式、始業式で始まり、卒業式、終業式で終る一連の行事を生徒と教職員と歩み、二十数年が経ち、浜南高の一連の行事を共に歩めることをうれしく思います。楽しみは部活動の応援と、あいさつをすることです。何の取り柄も能力もない自分ですが仕事にひたむきに打ち込み、さわやかな悔いのない日を送りたいと考えています。

めざせ一勝
夏に賭ける男たち

日に日に暑さも増し、今年も野球の季節がやって来た。創部三年目となった南高野球部、初戦の相手も決まり、後は最後の調整を残すのみとなった。去年は、初戦で島田商業高校とあたりおしくも一点差で負けた。力をつけた野球部、今年はどんなドラマを見せてくれるのか。



ピッチャー神谷君

我が校野球部も創部三年目を迎え、そろそろ南高の本当の実力を発揮しようと松山主将を中心に一丸となって練習に励んできた。今年のチームはレギュラー中八人が一年の時から出場しており、経験とチームワークは他校にひけをとらない。練習は月曜日が休みで部員全員が勉強。校庭が狭く、今までは学校から約七キロ離れた民間のグラウンドを借りていたが、五月に野球部のために校庭に黒土を入れたために月、水、木曜日には学校で練習できるようになった。これら学校で行なう日はおもに守備練習が中心で、渡辺監督が自らノックしておられる。エース右腕の神谷君は制球力があり変化球で打たせてとるタイプ。完投能力も十分に備わっているが立ち上がりに不安が残る。控えの辻村につなぐ継投策も考えられる。打線は冬場の筋力トレーニングを積んだおかげで全体的にパワーアップし、三割打者が六人と好調である。一、二番が塁に出て三番阿川ら中軸の強力打線でかえすというパターンが理想的。いずれにしても打線につながりがでてくれれば得点もあげられるだろう。守備には不安があるようだが内野は三遊間が比較的安定している。外野は肩に不安があるようだが正確な送球と連繋プレーを身につけたい。

―我が校のメンバー―

部長：菅沼　義也　　監督：渡辺　光雄

選手名	学年	出身中	選手名	学年	出身中
神谷　哲	3	天竜	稲村　篤志	2	江南
江間　睿之	3	江西	伊藤　賀弘	2	佐鳴台
田中　穣弘	3	白須賀	松岡　正修	2	入野
山崎　大輔	3	入野	若尾　強	2	天竜
阿川　圭吾	3	浜松北部	石津　匡賢	2	曳馬
泉　行宏	3	曳馬	小林　達也	2	新居
松山　明弘	③	江南	大野木　光晃	2	新居
林　正英	2	浜松南部	本郷　宏尚	1	浜松中部
倉内　伸也	3	三方原	杉山　武彦	1	蜆塚
…………		…………	鈴木　寛	1	新居
辻村　昌史	3	三方原	鈴木　研也	1	浜松北部
伊奈　穣	3	浜松北部	松井　隆太	1	浜松北部
天野　丈介	3	浜松南部	岡村　直人	1	開成
大野　望	3	舞阪	鈴木　健太	1	神久呂
佐野　真寛	3	浜松中部	松下　淳司	1	積志
内山　浩巳	3	南陽	安井　佳央	1	浜松南部
小原　直一	3	浜松西部	[illegible]　大司	1	与進
橋本　徳一	2	入野	[illegible]　淳	1	浜松南部
鈴木　久利	2	入野	藤田　忠志	1	浜松南部
樋口　功	2	浜松中部	宮崎　淳一郎	1	新居
藤原　賢一	2	江南	山本　直也	1	佐鳴台

※学年の○数字は主将。点線までが現時点のレギュラー

唯一の二年生レギュラー

林正英君は、南高野球部ただ一人の二年生レギュラーである。身長一七三センチ、体重六十五キロで他の選手と比べ、あまり大きい方ではないが、パワーとセンス抜群で、南高にとっては頼もしい存在である。今シーズンの林君の成績は、十九試合で三割七分七厘。五打席に二本の安打を放つ割合いで、打線を繋なぐ大きな力となっている。それに本塁打が五本。チームの本塁打数が九本だから、実に半分以上を一人でかっ飛ばしていることになる。そして何よりも林君のパワーが見られるのは、試合数を上回る二十一の打点である。これはもちろんチーム一の成績で、勝負強い性格の持ち主であることが分かる。

林君は、一日一日の練習を人一倍大切にして、帰宅後も一時間半の素振り練習をかかさずに行い、納得のいくバッティングホームを作っているという。このような林君の地道な努力が、二年生にしてレギュラー、そして三割七分台の高打率をキープし、二十一の打点をたたきだす力となっているのである。

南高野球部、創部三年目にしての初勝利、そして来シーズンへのステップとして今年の夏の大会では、是非実力を十分に発揮してもらいたい。

初戦は川根高

本校の相手川根高は大井川の中流にあり、静岡県のほぼ真中に位置している。チームの特色は、全体的におとなしく守りのチームというところである。エースは伸びのあるストレートを武器にしており、他に控えが二人いるが三人ともスタミナに不安がある。打撃に特徴はなく、チーム打率は二割七分。先に点を取って今までの練習成果を充分に発揮すれば必ず勝てる相手のようである。

部活動試合結果報告
男子バレー部・女子ソフト部など運動部の健闘光る

サッカー部
西部大会　七位
七・八位決定戦
浜南4—0掛川西
県大会　ベスト16
一回戦
浜南1—1静岡市立
（PK5—3）
二回戦
浜南0—6清水東

男子バレー部
西部大会
決勝　浜南2—0聖隷学園
県大会　四位
準決勝　浜南0—2東海大一
三位決定　浜南0—2下田北

女子バレー部
初戦敗退

男子ソフト部
県大会
二回戦
浜南7—0静岡北
（五回コールド）
決勝
浜南1—14沼津学園

女子ソフト部
西部大会
一回戦
浜南8—0江ノ島
（五回コールド）
二回戦
浜南16—0浜北西
（五回コールド）
三回戦
浜南1—0掛川東
決勝
浜南4—0浜松市立
県大会
一回戦
浜南11—0日大三島
（五回コールド）
二回戦
浜南6—8沼津学園
（延長十二回）

卓球部
西部大会　七位
団体戦
準々決勝　浜南0—3浜工
五〜八位決定　浜南1—3引佐
七・八位決定　浜南3—2
個人戦
清瀬・田代・柳川　ベスト64
県大会
団体戦
一回戦　浜南3—2沼津市立
二回戦　浜南0—3静岡市立

男子ハンド部
西部大会　リーグ戦五位
浜南—城北　×
浜南—気賀　○
浜南—天林　○
県大会
浜南9—10清水東

女子ハンド部
西部大会　三位
浜南7—11気賀
浜南7—4気賀
浜南5—13二俣
浜南5—6二俣

男子バスケ部
西部大会
ポケットゲーム
浜南111—41佐久間
一回戦　浜南95—26新居
二回戦　浜南46—131興誠
敗者復活戦　浜南55—65袋井

女子バスケ部
西部大会　八位
準々決勝　浜南64—68浜商
五〜八位決定　浜南38—62磐北
七・八位決定　浜南46—53信愛
県大会　ベスト16
一回戦　浜南59—57静岡精華
二回戦　浜南50—68浜松市立

男子テニス部
西部大会　個人戦
宮津　五回戦敗退
松下　ベスト16
県大会　個人戦
松下　ベスト16
西部大会　ダブルス
宮津・松下　ベスト16
松下・楠　ベスト16
県大会　団体戦
二回戦　浜南1—2静岡北

女子テニス部
中村勝子—市立　三回戦敗退
大石ひろみ—新居　〃
竹内照美—新居　〃
鈴木友江—湖西　〃
中村友美—掛川東　ベスト32

柔道部
西部大会　個人戦
60kg以下　鈴木大輔　初戦敗退
71kg以下　大場実　二回戦敗退
71kg以下　高橋誠　二回戦敗退
86kg以下　黒瀬将人　初戦敗退
86kg以下　伊奈崇臣　初戦敗退
県大会　団体戦
一回戦　浜南3—2藤枝北
二回戦　浜南3—2沼津城北
三回戦　浜南1—4池新田

男子剣道部
団体戦
一回戦　浜南4—0引佐
二回戦　浜南0—3磐田商業

女子剣道部
浜南1—1掛川東
代表戦で負け

水泳部
県大会出場者
男子400mメドレーリレー
男子400・800mフリーリレー
女子400mメドレーリレー
女子400mフリーリレー
100・200mバック　中野孝夫
100・200mバック　原田英俊
100・200mバタフライ　高澤智彦
200・400m個人メドレー　片山敦詞
100・200m自由型　鈴木里江子
100・200バック　橘山由紀
100・200mバタフライ　加藤玲子
100・200mバタフライ　芥川静子
100m自由型　神田紀子
200mバタフライ　野嶋寿世
400m個人メドレー　中村紀子

陸上部
西部大会
400m　平澤宏行　十二位
走幅跳　河合信康　優勝
三段跳　河合信康　優勝
400mリレー　長崎・平澤　十二位
岩瀬・深田
県大会…東海大会出場!……
走幅跳　河合信康　三位
三段跳　河合信康　三位

簿記部
全国大会出場!
団体戦　優勝
個人戦　優勝　渡瀬（38HR）
三位　浦上（37HR）
五位　太箸（30HR）

（六月末日までの成績です。）

校内トピックス

今回の校内トピックスは、校内の新しいものにスポットをあててみた。

図書室のイスが?

もうご存知の方も多いと思うが、図書室のイスが四月の中旬、クッション付きの新しいイスに変わった。

図書室といえば、学校内でただ一ケ所冷暖房を完備した場所で、夏や冬はみなさんの憩い?の場所となるところである。その図書室のイスがクッションつきのイスに変わったとなれば、夏の暑い時も冬の寒い時も長時間読書や勉強をして、おしりが痛くなるという悩みも解決されるだろう。まだ知らない人も、ぜひ図書室に行ってみて、読書や勉強をしてみてはいかがだろうか。

テレカ電話登場!

今やカードの時代といわれるほどカードが普及している中で、この南高にもテレフォンカードが使える電話が入った。

もう使ったことのある人のほうが多いと思うが、大変便利で十円玉を使っていた時のように、三分間という時間とお金を心配しながら電話をする必要がなくなった。だからといって他人の迷惑になるほどの長電話はさけたほうがよいだろう。

でも、テレフォンカードで電話をした後に「ピピッピピッ」と音を出しながらカードが出てくるのが恥かしいという声もちらほら聞かれる。そのために、その「ピピッピピッ」という音を消す方法があるそうだ。みなさんも研究してみたらどうだろうか。

でもこの電話、まだテレカに不慣れな先生方にはあまり好評でないとか……。

第二体育館　もうすぐ完成!

校庭の西側に建設されている体育館が七月の下旬にできあがる。

あと二学期間で卒業してしまう三年生の中には「もうちょっと早くできてくれれば」と思っている人も少なくないと思う。二年、一年生は、もちろん三年生も、これからいろいろなことでこの第二体育館を使うことがあると思うが「平成元年度・完成」のこの体育館を大切に使用していきたいものである。

中でも、一番よく使用すると思われるのが、室内運動部のみなさん。今まで一つの体育館で多くの部活が共同で使用して、他の部と交替しながら使用していたので、思うぞんぶん練習ができなかったりして不満があったのではないかと思う。

しかし、これからは今までよりは練習時間が確保できるようになる。また、LHR活動や学年などで、さまざまに工夫して使用することができるように思われる。

編集後記

入学当初に配られた「南高新聞」を見て、「すごいなあ。こんなこと一体だれがやるんだろう。」と感心していましたが、まさか自分がこの「南高新聞」を作るとは思いませんでした。実際新聞を作ったことがないので何をしたらいいのか戸惑いましたが、何とか「新聞」と呼べるものが出来上がりました。

何も知らない初心者の一年生（現在、新聞部には二、三年生の先輩方が一人もいません。）十一人がなんとか作り上げたものなので、文章がへたで読みにくい点がたくさんあったと思いますが、今回のところ大目にみて下さい。次回は今号以上、紙面を充実させるよう努力いたしますので期待していて下さい。

これから夏本番です。今年の夏は去年に比べて暑くなるそうです。夏バテなどしないよう十分気をつけて下さい。

それでは次号で会いましょう。

次は君の番だ!
男女有志募集。
応援団

谷島屋書店
YAJIMAYA
本店　〒430　浜松市連尺町309-1　☎(0534)53−9121(代)
リブレモール●鍛治町モール街
松菱店●松菱デパート8階
遠鉄百貨店●5階
駅の谷島屋●コスタ内
メイワン店●砂山町
駅南店●領家町
なかざわ店●中沢町
毎日ボウル店●有玉南町
浜団地支店●遠州浜2丁目
浜松医大売店●半田町
聖隷病院売店●住吉●三方原

スーパーグリーン
FRESH No.1
いぐち
県立浜松南高校前
浜松市法枝町616
TEL 41−0050

河合塾
入れる大学から、入りたい大学へ
'89 夏期講習会
高1・2・3年／申込受付中
浜松会場：浜松市民会館
お問い合せ・お申し込み
浜松事務所　〒430 浜松市田町324の3 住友生命浜松田町ビル3階
TEL (0534) 53−5581(代)